

小學作法一班

佐久間舜一郎  
進藤貞範

編輯  
二

佐久間舜一郎  
進藤貞範 編輯

# 小學位法一班

岡山縣師範學校感版

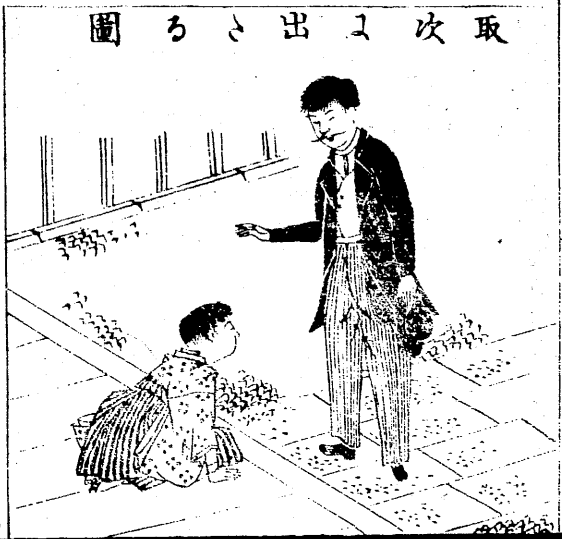
小學作法一班卷之二

## 第一章

取次の作法

人の来り給ひし時。取次ふ出で、ハ。丁寧ふ兩手をつきて。其用事を聴取るべし。已不用事を聴了らば。餘り小

起ちて。内不  
 入り。父母兄  
 長の前不  
 行。両手をつ  
 けて。右の用  
 事を演べ次ぐべ  
 坐敷不  
 通る人ならぬ。其後不



隨ふべ  
 初ての客ならバ。先不  
 立て案  
 内不べ

第二章

人不物を進むる作法  
 煙草盆を出さぬ。唾壺を客  
 の右の方不なる様不。兩手

煙草盆と出図



小て持ち出で。  
 客の前小至り。  
 跪きて出度べ  
 一  
 収る時ハ。前の如く跪き。兩手  
 小て煙草盆を少しく手前小  
 引き寄せ。其まゝ、兩手小持ち

て返るべー  
 火鉢の出ー様々。煙草盆と同  
 様なり  
 三つ足の火鉢ならバ。二足を  
 上坐の方へ向け。一足を下坐  
 へなして置くべー  
 煙草盆と并べて出度時なら

日本書紀  
 卷之二十一  
 皇極經世一  
 三十三

バ。火鉢の左の  
 方へ置くべき  
 なり  
 茶を進むるふ  
 る。茶臺ふ載せ。  
 両手ふて持ち出で。客の前ふ  
 跪きて進むべし

茶を進むる圖



進むる時ハ。右の手ふ臺を持  
 ち。左の手を軽く添へて。臺と  
 共ふ出さべし  
 客。茶碗むりりと取るときは。  
 臺を持ちて返るべし  
 客。直ふ受けざるときハ。臺の  
 まゝ。下ふ置きて返るべし

又。客の方にて。臺と共不受け  
 取ることあるべし  
 菓子鉢を進むるを。煙草盆を  
 出せと同様なり  
 凡て。父母尊長へ物を進むる  
 不々。何品不ても。直不手不取  
 り給ふて。勝手よき様不々べ

きなり  
 扇子ハ。右不<sup>くあり</sup>要の所を持ち。左  
 の手不立て掛けて進むべし  
 團扇を。柄の方  
 を向ふへなし  
 て出せべし  
 小刀庖丁の類

團扇を進る圖



儀禮卷之五

ハ。右小鞆の端を持ち。左の手  
を添へ。又を手前小向け。立て  
て進むべし

又物を進る圖



書翰々。字の頭  
を我方ふして。  
左の手小持ち。  
右の掌小載せ

て差出さるべし

### 第三章

#### 拜禮の作法

拜禮の作法も。人と場所と小  
よりて。種々不異なるものなれ  
ど。總て敬禮を本旨と心得べ  
きなり

坐まゐり様やうを。兩足を揃へて立ち。左の足より一足づゝ。後の方へひき。爪先を立てながら。兩膝をつき。兩足の拇指を重ねて坐す。兩手を膝の上小置くべし。坐禮ふハ。上中下の三等あり」

上々。貴人小對するの禮なり。兩手の指先を向ふへなし。臂を膝の前小下げ。左右の拇指。

食指。中指を突き合せて。其上小額と着くべし。



坐禮作法一狂卷之三十七

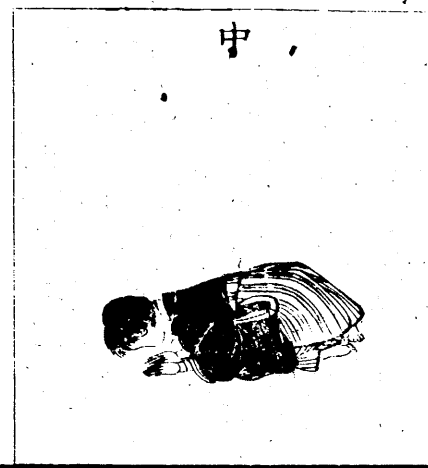


頭を上る時ハ。

其揚ぐる不隨

ひて。兩手を開

くべし



中ハ。同輩小對<sup>あひま</sup>するなり。兩手  
 を並べてつき。臂を膝の前小  
 下げ。頭を垂れて。手を離る、

こと一二寸の邊あひま小至るべし

下ハ。下輩小對<sup>あひま</sup>するなり。兩手

を膝の前よりつき。其間を四寸

許りも開きて。

塵小頭と下ぐ

べし

以上の三等を



古禮不て。真行草の三様と云へり。凡て。此三等の作法不。頭のみを垂れて。肩を下げざれば。頸筋あきて見苦しく。腰の高きも亦よりらぬ。肩腰とも不。等しく下げて。平りなる様不。

べきなり。已不拜をなして退く時ハ。着坐のまゝ不て。少しく腰を上げ。兩足の指を爪立て。跟かかとの上。尻を据ゑ。両手と膝不取り。下坐の片膝を上げて。横さま。少しく開き。上坐の膝を

開きし膝小摺り寄せて。下坐  
の足より立ちて。又其足より  
進み去るべし

立禮ハ。最敬禮と敬禮の二様  
あり  
最敬禮ハ。兩足を揃へて立ち。  
腰を屈め。兩手と膝頭小垂れ



最敬禮

を脱ぎ。左の腋小挿み。左手小  
て之を支へ。腰を屈め。右の手  
を膝小當て、拜をべし

て拜をべし  
帽を頂きた  
るときハ。右  
の手小て帽

敬禮を。兩手を左右小垂れ。唯  
 頭を領くのみ  
 帽を頂きたるときハ。右の手  
 小て帽を脱ぎ。  
 左の手小持直  
 して。少しく領  
 くべし

敬礼



椅子小在るとき。人小接はる  
 小る。椅子を離れて立禮を  
 凡て。立禮ハ。腰を屈むるも。膝  
 并び小臂の曲らざる様注意  
 せべきなり  
 途上行逢の禮 途中小て高

貴の人ふ出  
 で遇ひなご。  
 其間六七尺  
 程の所ふて。  
 其右の方ふ  
 避けて敬禮  
 一。貴人の通

途 中 貴 人 不 拜 禮 多 圖



り過ぎ給ふを待ちて。進み去  
 るべし  
 同等の人ならば。互ふ右ふ立  
 ち避け。一禮して過ぐべし  
 凡て。貴人老人も。我右を通し。  
 同輩ハ。我左を通るものと心  
 得置くべし

貴人老人など。行く先を問ひ  
 給ハミ丁寧不返答モベ。自  
 己より之を問ふモ失禮也  
 貴人老人と。途中同行せると  
 きモ。必だ其後不隨ヒ。三尺を  
 りり隔て、行くべ  
 稍年長の人ならば。筋違ひ不

貴人より従ふ圖



後れて行く  
 べ  
 同等の友達  
 不モ。相并び  
 て行くべ

凡て。人と同行中不モ。用事  
 ありて。他の路に進まんと欲

来るときハ。一禮して別れ去  
るべし

同輩と並び行く時ハ。別れ去  
らんと欲する前より。豫め其  
方位を考へ。其人の後を。右或  
ハ左へ避けて。用意を為さべ  
し

別るハ。不臨みて。先不覺られ。  
其人をして自己の後を避け  
しむるなど。不注意のことあ  
るべし

小學作法一班卷之二 畢

岡山縣師範學校藏

全 明治十七年一月十一日 版權免許  
年三月 出版

定價 金 五錢五厘

編輯人

岡山縣平民

佐久間舜一郎

岡山區西川九十九番屋敷寄留

岡山縣士族

進藤貞範

岡山區門田屋敷三十三番屋敷

岡山縣師範學校藏版